

塩原又策 {三共}の創業者。高峰謙吉のタカチアスターゼを核に、一商人から、世界的製薬企業へ発展させた。

しおばらまたさく

西南戦争・・・1877 = 横浜で、信州出身で船舶用飲料水の商売を始めた塩原又市の長男に生まれる。

明治14年政変1881 = 4歳 :

帝国大学始・・・1886 = 9歳 :

小学校時代に、父の友人の横浜の豪商大谷嘉兵衛の養嗣子幸之助と親友になり、大谷商店のグローバルな商業活動に憧れるようになり、

帝国憲法発布1889 = 12歳 :

横浜英語学校に進学、

卒業すると、_貿易実務を学ぶため、{日本製茶}に入社、

日清戦争始・・・1894 = 17歳 :

日清戦争終・・・1895 = 18歳 :

八幡製鉄始・・・1897 = 20歳 :

早くも独立すべく父と相談、大谷嘉兵衛の資金援助を得て、_外国商館へ絹織物販売する{横浜刺繍}を設立するが、生糸相場の変動やアメリカの関税強化などで困難を極めるうち、{日本製茶}での先輩で渡米予定の西村庄太郎と偶然出会い、新たな可能性ある商売を見つけてくれるように頼んだところ、

子規句歌革新1898 = 21歳 :

「渡米した西村が日本領事主催の宴席に招かれた際、皆が満腹したため、領事が持ち出した高峰謙吉発見の胃腸薬タカチアスターゼを飲んだところ、あっという間におさまり、これは米食の日本人にうってつけと、領事に紹介してもらって、高峰を訪ね、日本で売るためにと、自分を売り込んでくれて、話が決まり、何度も電気で交渉した末、委託販売契約を結ぶに至る。名称に困って色々あたるうち、ドイツ帰りの医師から、ドイツ読みでタカチアスターゼとしたらと提案され、即決。西村に友人福井源次郎を加えた3人の共同出資で匿名合資会社{三共商店}を設立し、{横浜刺繍}の一室で営業を開始。

田中正造直訴1901 = 24歳 :

医家向け専門誌{中外医事新報}に、斎藤満平なる人物がタカチアスターゼ一手販売の広告を掲載したのを見て、人を介して、特約契約を結ぶなどするうち、

教科書疑獄・・・1902 = 25歳 :

_本業の{横浜刺繍}が輸出不振と不況で経営で解散。改めて{三共商店}を登記、羽二重輸出など引きずっていたことから、タカチアスターゼのため薬品部を設けると、特約販売店が急増。

日比谷公園・・・1903 = 26歳

日露戦争始・・・1904 = 27歳 :

横濱の鳥居徳兵衛商店と関東代理店契約。_タカチアスターゼに絞って、日刊紙への大型広告を始める。アメリカのセントルイスで開催され、北里柴三郎ら著名な学者が参加する学会に、高峰の勧めで同行、パーク・デービス社を訪問して、つぶさに観察して帰国。_医学者向けに{治療薬報}を出すとともに、鑑定を依頼、薬局向けには{薬業月報}を発刊、

日露戦争終・・・1905 = 28歳

韓国反日暴動1907 = 30歳

アソビ 創刊・・・1908 = 31歳

この年、西村と福井が権利を売却して退くが、福井は直ぐに復帰して幹部となる。箱崎工場開設。妻と共同出資の{三共薬品合資会社}に改組。高峰の仲介で、フォード社の日本総代理店となるも、まだ運転手不足時代で売れず。医療器械部設置に伴い、{三共合資会社}と改称。資生堂福原有信に教えられた大敷地を購入し、

伊藤博文暗殺1909 = 32歳

韓国併合・・・1910 = 33歳

大逆事件判決1911 = 34歳

明治天皇没・・・1912 = 35歳

大正政変・・・1913 = 36歳 :

品川工場を開設するとともに、その一棟に移住。この年、_鈴木梅太郎がオリザニン(ビタミンB1)を発見し、この年、ベークライトの日本特許専用権を取得。_製法特許をとると、製造販売を許され、脚気特效薬オリザニン液を発売。渡米して、高峰謙吉と'大化学会社への脱皮を目指す'協約を結び、_高峰を社長に、{三共株式会社}を設立。一時帰国した高峰とともに、渋沢栄一・益田孝を訪ね、錚々たる財界有力者を株主とすることに成功、大谷嘉兵衛父子の支援で横浜財界人も多く参加、

第一次大戦始1914 = 37歳 :

タカチアスターゼを国産化。第一次世界大戦勃発で医薬品の輸入が途絶、国産化が喫緊の課題となり、まず、日独の学者が創製し、鈴木梅太郎が製法確立した梅毒スピロヘータ特效薬サルバルサンを製造販売、_辛苦の末、清酒100万石分のサリチル酸を製造し、大蔵省の指定期日内に納入、大臣感謝状を贈られる。さらに、医薬品高騰に対応すべく、政府委員会で主唱して、{内国製薬株式会社}が開設される。前年着手したベークライト製造も、原料が入らなくなって行き詰まる。

21ヶ条要求・・・1915 = 38歳 :

この年、西村が再び株主となる。ベークライト製造工場を焼失、再建するも、自動車部品や機械の輸入商社{興東貿易}の設立に参加、まもなく自社事業になる。_鈴木梅太郎の指導により、燻蒸殺虫剤クロロピクリンを製造して、農業事業にも乗り出し、

本格政党内閣1918 = 41歳

原敬首相暗殺1921 = 44歳

この年、西村が再び株主となる。ベークライト製造工場を焼失、再建するも、自動車部品や機械の輸入商社{興東貿易}の設立に参加、まもなく自社事業になる。_鈴木梅太郎の指導により、燻蒸殺虫剤クロロピクリンを製造して、農業事業にも乗り出し、

水平社結成・・・1922 = 45歳 :

高峰謙吉がアメリカで死去。

関東大震災・・・1923 = 46歳

治安維持法・・・1925 = 48歳

日本時代始・・・1926 = 49歳

世界恐慌・・・1929 = 52歳

満州事変・・・1931 = 54歳 :

この年、西村が囑託として復帰。ようやく_ベークライト製造販売が軌道に乗り始め、この年、西村が外国部長に就任。

五一五事件・・・1932 = 55歳

国際連盟脱退1933 = 56歳

芥川直木賞始1935 = 58歳

二二六事件・・・1936 = 59歳

日中戦争始・・・1937 = 60歳

健保+総動員1938 = 61歳

大政翼賛会・・・1940 = 63歳

日米開戦・・・1941 = 64歳

敗戦・・・1945 = 68歳

新憲法公布・・・1946 = 69歳

三大事件・・・1949 = 72歳

朝鮮戦争始・・・1950 = 73歳

{三共株式会社}の二代社長となる。{株式会社ハーレーダビッドソンモーターサイクル販売所}を設立し、分離独立させる。この年、西村が退社。分離して_{日本ベークライト株式会社}を設立。

輸入車価格急騰に対処し、国産化に乗り出し、国産ハーレーダビッドソンともいうべき"陸王号"を完成、需要拡大に対処すべく{三共内燃機株式会社}を設立、

{ハーレーダビッドソンモーターサイクル販売}を吸収合併し、{陸王内燃機株式会社}とする。この年、福井が死去。

*社長を長男禎三に譲って、会長になったあとも経営指導していたが、_社長を新設し、ベークライトを増産して、軍需にも対応。

敗戦の結果、軍需部分が無くなり、(公職追放で)_退任し、

{陸王内燃機株式会社}が倒産。会長になっていた長男禎三が渡米し、パーク・デービス社と交渉、同じく軍需を失った{昭和飛行機}と共同で再建を図るも、すでに市場は寡占状態。_タカチアスターゼの製造販売を再開し、抗生物質製剤クロロマイセチンの輸入発売に成功して、敗戦の打撃を一気に克服、

風邪薬ルルの発売開始。さらに技術援助契約を結んで、国産化、以後20年にわたって市場に君臨するなど、_急速に製薬大企業として発展するのを見ながら、(追放解除後)_相談役に退いて、

{日本ベークライト}を住友に譲渡し、{住友ベークライト株式会社}となる。_没した。